

第４次秋田市食育推進計画（素案）に対する意見と対応

意見募集期間　令和７年１２月１７日（水）から令和８年１月１６日（金）まで

意見および本市の対応

No.	章	項目等	意見要旨	本市の考え方・対応
1	第２章 食育の現状と第３次計画の成果	３　第３次計画 「これまでの取組と課題」 基本方針（１） 健康な心身をつくろう	子供の肥満についての取り組みについて、学校での指導はある程度必要かと思うが、根本的には親や家庭の意識が重要と考える。 現代社会では、コンビニエンスストア等で高カロリーなおやつが手に入る状況があり、普段の家庭教育での教育が無い限り学校の指導効果は限定的なものとなるのではないか。	家庭は、心身の健康増進をはぐくむ基盤となる大切な場所であると捉えておりますが、どのような環境にあっても、望ましい食生活に関する知識や食品の選び方などを身につけ、実践できるよう、様々な機会を通じて、食に関する正しい情報や好ましい食生活について周知してまいりたいと考えております。
2	第２章 食育の現状と第３次計画の成果	３　第３次計画 「これまでの取組と課題」 基本方針（３） 地域の食文化を学ぼう	予算の都合上、難しい面もあると思うが、子どものうちから品質の高い野菜を食べ、おいしさを理解してほしい。 P４を見ると、最新の実績値が当初計画に届いていないため、この分野は市のほうでも頑張っていたきたい。	第３次計画での課題を踏まえ、第４次計画では指標を「学校給食への市内産農産物の使用率」に変更したところですが、いただいたご意見は、地元食材を活用した地域の食と食文化の理解促進を図っていくうえでの参考とさせていただきます。
3	第３章 第４次計画の取組	１　基本方針と主な取組 基本方針１ 食を通じた健康づくりの推進	最近の親は、部活動時コンビニエンスストアでおにぎりを買い与える等、手作りをする手間を省いて添加物を多く含んだ食品を与えており、これが将来的に体に及ぼす影響を検証した方が有意義ではないか。 減塩についても、塩化ナトリウムは身体にとって良くない影響はあると思いますが、ミネラルが豊富な自然塩まで摂取してはいけないというような風潮になっており、これが、熱中症患者の急増に繋がっていると考える事に結び付いていない。	すべての市民が、望ましい食生活に関する知識や食品の選び方などを身につけ、実践できるよう、学校、職場、地域など様々な機会を通じて、生涯を通じた食育の推進に努めてまいります。
4	第３章 第４次計画の取組	１　基本方針と主な取組 基本方針２ 基本的な食習慣の形成と定着	食育は精神面にも関係していて、イライラすると食べ過ぎたり、個食だと食欲もわかなかったりする。 子どもの食事については、食事前にあまりおやつを食べ過ぎないようにしたり、良くかんでゆっくり食べたりすることが大事だと思う。 野菜から食べたり、食べる順番に気をつけたりすると肥満防止になると思う。 年をとると飲み込みも悪くなるので、食事の前に水やお茶を飲むのも良いと思う。	近年のライフスタイルの多様化は、食生活にも影響を与えており、生活習慣病のリスクの増加や子どもの肥満といった健康課題につながる可能性があると感じております。 いただいたご意見は、基本的な食習慣の形成と定着を目的とする施策の参考とさせていただきます。
5	第３章 第４次計画の取組	１　基本方針と主な取組 基本方針３ 食に関する実践活動の促進	小学校１年生の時は、ミニトマトや野菜、アサガオの花を育てたり、５年生では、まんだらめで田植えや稲刈りを体験すると思う。 東京の六本木ヒルズの屋上で田植えをしている親子の映像をテレビを見た。 泥がぬかるんでいるので泥の中に入るのを嫌がったり転んだりしていたが、田植えを体験することでお米を収穫したときの喜びや食べることへの関心、食べ物を残さず大切に食べるという気持ちを子どもたちが大切にしていほしいと思った。	農作業体験や収穫体験は、食べ物への感謝や好き嫌いの克服といった効果が期待できることから、農業体験や収穫した農産物を使った調理教室などを通じ、食への関心を高めてまいりたいと考えております。
6	第３章 第４次計画の取組	１　基本方針と主な取組 基本方針３ 食に関する実践活動の促進	食品ロスを減らすための啓発・周知として、残り物を利用したレシピを募集して共有するのはどうか。 各家庭でいろいろな工夫があると思う。共働き家庭や核家族など、自分と似た環境にある人たちの意見交換は参考になるのではないか。 栄養面等は市の保健師、栄養士が指導を入れてもよいと思う。	食品ロスについては、本市における課題の一つと捉えており、「秋田市食品ロス削減推進計画」に基づいて食品ロス削減の取組を進めております。 今後も、様々な機会を通じ、引き続き周知・啓発を図ってまいります。
7	第３章 第４次計画の取組	１　基本方針と主な取組 基本方針３ 食に関する実践活動の促進	園芸振興センターで行っている「中学生食農体験学習」について、中学生は、部活、受験と忙しい。 体験学年を小学校中～高学年と広げて、より多くの子どもたちに機会を与えるのはどうか。	「中学生食農体験学習」は、各学校が授業で取り組んでいる職場体験学習の一環として、中学２年生を対象に平日、部活動や受験に支障のない範囲で行っております。 小学生の食農体験学習については、すでに取り組んでいる学校もあることから、食への関心を高めるため、引き続き教育委員会を通じて働きかけてまいります。
8	第３章 第４次計画の取組	１　基本方針と主な取組 基本方針４ 地域の食と食文化への理解促進	地産地消の取組は、「大住小学校の給食に提供」だけか。 園芸振興センターの規模が分からないが、もう少し広げられないか（例えば、南部地区など）。 もし、提供が困難な場合は、直売所の設営やイベントへの出店等で販売はどうか。	市内産の野菜は生産量が限られており、園芸振興センターで生産される野菜についても、全ての小・中学校の給食に提供できるほどの出荷量はありません。 なお、園芸振興センターで生産された野菜などは、直売施設等でも販売しており、今後も継続して実施する予定です。
9	第３章 第４次計画の取組	１　基本方針と主な取組 基本方針４ 地域の食と食文化への理解促進	園芸振興センターの野菜の一部は大住小学校だけの給食に提供するのは、他小学校に対して不公平ではないか。	市内産の野菜は生産量が限られており、園芸振興センターで生産される野菜についても、全ての小・中学校の給食に提供できるほどの出荷量はありません。 園芸振興センターは、大住小学校の近隣にあることから、地産地消の取組の一環として、同校の学校給食に提供しているものです。
10	第３章 第４次計画の取組	１　基本方針と主な取組 基本方針４ 地域の食と食文化への理解促進	食文化について残念だと思うのはハタハタである。 ハタハタは温暖化の為に取り過ぎてしまったのか激減している。 今からでもハタハタの稚魚を育て将来に繋げることができたらと願っている。 ハタハタが大漁になったら何kgまでとか、小さめのハタハタはとらないとか、何か良い方法はないものかと思っている。	ハタハタは県民、市民に親しまれている郷土の食材であると認識しております。 ご意見いただいた漁獲等に関する課題については、担当部局である産業振興部に情報提供させていただきます。

11	第3章 第4次計画の取組	1 基本方針と主な取組 基本方針4 地域の食と食文化への理解促進	秋田市は新鮮な農産物、水産物に恵まれた環境にあるが、旬の食材が何か、どんな魚が捕れているのかあまり考えずに生活している。どんな野菜が採れて、どのような調理方法（種類）があるのか知る機会があれば、地産の食材に興味が出てくるのではないかと思う。イベントなどの情報は分かっているが、交通手段、時間等で参加できない市民も多くいると思う。 JA、漁業組合の方達を通じて、「旬の食材、調理方法、昔から伝わるおかず」などの情報を市民が目にする事が多いテレビ、新聞、広報等で発信していただくと、地元の食材にもっと興味が出てくるのではないか。	旬の地元食材や調理方法を効果的に発信することで、地域の食や食文化への理解が深まるものと考えております。 いただいたご意見を参考に、食育に関する取組を行っている他の団体等とも連携を図りながら、本市食育の推進に努めてまいります。
12	第3章 第4次計画の取組	1 基本方針と主な取組 基本方針4 地域の食と食文化への理解促進	地域の食のイベントに参加することは、地域の食文化を知ることができたり、地域のおいしい食べ物が食べられたりするほか、日頃1人で食事をしている人も皆と一緒に食事を楽しめるため良いことだと思う。作り方のレシピや、材料の栄養、旬の時期等が書かれたものがあれば、「また食べたいな」「作ってみたいな」と食に関心を持つのではと思った。	食のイベントは、地域の食や食文化への理解が深まるとともに、共食の機会にもつながるものと考えております。 市民の皆様が食に関心を持っていただけるよう、関係部局や食育に関する取組を行っている他の団体等とも連携を図りながら、情報発信に努めてまいります。
13	第3章 第4次計画の取組	1 基本方針と主な取組 基本方針4 地域の食と食文化への理解促進	私は車を持たない生活をしている。 地域の食と食文化への理解促進に興味があるが、御野場団地内に2～5店くらい食堂があり、働きながら食文化を学んで、団地内の方々に食べて欲しいと思っている。 食堂があり、働ける場所があれば、もっと身近になると思う。 もし働けるチャンスがあれば、働きたい。 SNSなどから学べますが、実際に働き学べたら良い。 このように、御野場団地のような不便な場所にこそ、食堂など働ける場所をつくってもらい、食文化を進めていく食育を希望する。	市民が身近な食堂などで地域の食文化に触れることは、地域の食と食文化への理解を深めることにも寄与するものと捉えております。
14	第3章 第4次計画の取組	2 数値目標 肥満傾向にある子どもの割合	肥満傾向にある子どもの割合の現状と目標がほぼ同じなのはなぜか。 第3次計画では大変がんばっているのと取り組まれていたと思う。現在の子どもたちを取り巻く環境から見ても、これはなかなか結果に結びつかない難しい取り組みだと思うが、だからこそ目標値をきちんと掲げて、地道に継続するべきだと思う。	子どもの肥満は、家庭環境や生活習慣、運動環境など、多様な要因が複合的に関係していると捉えており、指標の対象である10歳（小学5年生）の肥満割合は、本市でも増加傾向となっています。 この状況を踏まえ、指標「肥満傾向にある子どもの割合」の目標値については、まずは現状維持の13.0%としたところでありますが、今後様々な取組により減少させることを目指してまいります。
15	第4章 ライフステージに応じた取組の視点	成人期	偏った食生活と生活習慣病の関連性について、脂質や塩分の過剰摂取がなぜ良くないのか、どのように減らすのか、具体的な方法を記載してほしい。 また、ライフスタイルの多様化で、十分な時間をかけた食事の提供が難しくなっている。 コンビニやスーパーのおそうざい、外食などを利用しながら、健全な食生活ができるようアドバイスがほしい。 家庭での取り組み（意識）が、子どもたちに伝わり、自分たち（子どもたち）が親になった時に、その時代に合った食生活を考えられるよう伝えていきたい。	計画内に栄養バランスや減塩などについて解説するコラムを追記します。また、計画の各事業の取組を通じて、学校、職場、地域など様々な機会において、情報提供に努めてまいります。
16	全体		年代別に目標が異なり、その年代に大事なことが書かれておりとてもいいと思う。 私は子どもが2人いるが、家ではあまり魚料理を食べてくれないが、給食では食べていたり、いろんな季節や国のものが献立にあったりと食べたことのなものを食べたりしており、勉強になる。 私も50代になり、若いときは食べる物や好みが変わってきた。 子どもも大人も食べて美味しいものをと毎日献立を考えながら作っている。 今回の食育の案を意識して自分でできることをしていきたい。	市民の皆様が食育に関心を持ち、生涯にわたり元気に生活していただけるよう、引き続き本市食育の推進に取り組んでまいります。
17	全体		健康は食生活とつながっていることは、ほとんどの方が知っていると思う。 おいしい物を食べたい、好きな物を食べたいと思ったとき、歯は重要な役割を果たしていると思う。 私は3～4ヶ月毎に定期的に歯のメンテナンスを行っている。痛くなってきたら行くのではなく、痛くならないために行くことが必要だと思っている。	歯の健康は全身の健康と関わりが深く、食事の楽しみに直結するものと認識しております。 いただいたご意見を参考に、引き続き本市食育の推進に取り組んでまいります。
18	全体		素案のとおりで良いと考える。	今回いただいた他のご意見も参考にしながら、本市食育推進の羅針盤となる計画になるよう努めてまいります。